



『隠岐神社社報』

創刊号

発行者

隠岐神社社務所

〒684-0403

島根県隠岐郡海士町海士

電話 08514-2-0464

隠岐神社御創建七十年にあたって

隠岐神社宮司 村尾 周

後鳥羽天皇七百年祭を機に隠岐神社が創建されてから今年は七十年になります。創建時の熱勢と大きく変わり、戦後の困難な時期もありましたが、今日海士町の象徴的な神社として多くの参拝者が訪れるようになりましたのは、崇敬者をはじめ町民の皆様方の奉賛の賜であり厚く御礼申し上げます。

御祭神・後鳥羽天皇は文武両道に秀でられた御英邁な天皇で、『新古今和歌集』編纂の詔に代表されるように、御歴代の中でも特に和歌の道に秀でておられました。この伝統は今日宮中の歌会始に引き継がれ、皇室と国民の心を親しく結ぶ行事として厳粛に執り行われています。御歴代の天皇が常に国の発展と国民の平穏を祈られるとともに、日本の文化・伝統を大切にしておられる大御心を御製（和歌）により、拝察申し上げます。

後鳥羽天皇をお祀りします隠岐神社と聖跡等縁深い地に住む私どもは、皇室を敬う心と、日本の歴史と伝統・文化に関心を持ち、日本国民としての自信と誇りを次の世代にしっかりと伝えてゆく責務があるということを肝に銘じ神明奉仕に励む所存です。

当社では、十月十七・十八日に御創建七十年式年大祭を盛大に斎行するとともに、御神徳の宣揚と御神域の維持管理に努め、町の発展と御社頭が益々賑わうよう活動を進めてまいります。

この度社報を発刊して、隠岐神社のお祭りや行事、神社にちなむ事柄などを紹介してゆきたいと思っております。今後とも、皆様方の変わらぬご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

隠岐神社の祭典、行事案内

七月 四日 午前十一時
月次祭
神札・守札御霊入の儀

八月 四日 午前十一時
月次祭
神札・守札御霊入の儀

十五日 午前
新成人奉告祭

九月 四日 午前十一時
月次祭
神札・守札御霊入の儀

二十六日 午前十時
冷泉家披講の座

「平成の歌会」
（後鳥羽天皇七十年祭、海士町制施行四十周年記念事業）



(創建65年式年大祭御旅)

海士町後鳥羽院資料館の紹介



(献詠帖)

県指定文化財の「刀剣 来国光」、十三方の宮様の和歌を綴った「献詠帖 さよちどり」をはじめとする隠岐神社の宝物は、海士町後鳥羽院資料館に展示してあります。開館は3月21日から11月20日までの午前8時30分から午後5時となっております（団体割引あり）。ぜひご覧ください。町内の方は無料です。

後鳥羽天皇の遠島百首



御祭神 後鳥羽天皇の御神徳の内、代表的なものは和歌の才と申せましよう。

京より遷幸された後、この隠岐においても約七百首の和歌を詠まれております。その中でも、特に優れた御歌は、天皇が御自ら心行くまで手をお加えになられ、「遠島百首」としてまとめられました。この百首より、夏にちなむ歌を首紹介いたします。

ふるさとをしのぶの軒に風すぎて

苔の袂に匂ふたち花

(行在所跡の左側に高松宮喜久子妃殿下
謹書の碑があります)

夕すずみあしのはみだれよる波に

螢かすうあまのいさり火

見るからにはだへすずしきなつごろも

日も夕ぐれのやまとなでしこ

「隠岐の後鳥羽院抄」より

境内の植物紹介



榊(さかき)

神社のお祭り、神棚のお祭りに欠かせないのが、瑞々しい榊です。榊はツバキ科の常緑の広葉樹で、関東以南に広く分布します。古典『古事記』には、各地の神楽の題材ともなる「天岩戸開き」について、次のように記しています。

弟である須佐之男命のあまりの乱暴に業を煮やした天照大御神は、天之石屋にお隠れになりました。最も尊い神様である大御神が隠れたことにより、神々の世界は暗くなり、様々な災いが起こって大変に混乱します。これに困った神々は、話し合いを重ね、大御神にお出ましいただくために石屋の前でお祭りを行うことを決めます。神の山の眞賢木(まさかき)を根本から抜き取ってきて、そこに八尺勾穂(まがたま)と八咫鏡(かがみ)と丹(たん)をかけて立てます。そして、神々の前で女神が踊り、賑やかな祭りがはじまりました。その賑やかな声を聞いた大御神が少し戸を開けた時、眞賢木にかけた八咫鏡が差し出され、大御神のお姿がその鏡に映りました。鏡に映ったご自身の姿を見て、いよいよ不思議に思っ戸を開けた大御神を、力持ちの神が引っ張りだしたことで、大御神がもとの世界にかえり、世の中に光と平安がもどってきます。

お祭りの最も古い形を示すこの記述から、神と神事の深い関わりがうかがえます。尚、榊のない地方では、檜や杉等を代用する場合があります。